

佛心

二〇二一年二月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺



おそなえ

ここトロントでは、日本のように月参りといつて御門徒さん宅に毎月伺い、その家のお仏壇前でお勤めをする習慣がありません。その理由は主に3つあります。1つはご自宅にお仏壇そのものが無いご家庭があること。2つ目は、毎週日曜の法要にみなさんがお寺に集う習慣があること。そして3つ目が物理的な距離の問題があることです。私はたまたまトロント仏教以外に3ヶ寺と1コミュニティのお寺を受け持っています。一番離れている御門徒さんのご自宅は約600キロ先にあります。そのためなかなか日本のように各ご家庭を伺い、そのお仏壇で手を合わせる事が難しくもあります。

しかしそのお月参りとは関係なく御門徒さんの家にお邪魔させてもらったとき、そこにお仏壇があると私のところは少し嬉しくなります。しかもほとんどの御門徒さんが、ちゃんと仏壇を綺麗に手入れしており、お花やお饅頭などを仏様におそなえしてくれています。

トロント寺院でも常に綺麗なお花や蝋燭の火を荘厳し、法要時には果物やお饅頭をお供えさせていたいただいています。

そして、毎週末の法要で忘れてはならないのが「お仏飯」のお供えものです。「お仏飯」とは、字の通り仏様にお供えする白米のことです。日本のお寺では毎朝のお参り（晨朝勤行）をはじめめる前に、その日一番に炊きあがったお米を先ずは仏様にお供えします。そしてお参りが終わればそのお仏飯を「仏様からのお下がり」としていただくわけです。なんともありがたく尊いご飯です。

しかし、寺院で生まれ育った私にとって学生の頃は毎日の朝食が、少し乾燥して固くなったうえにお香のにおいが残るお仏飯はあまり嬉しいものではありませんでした。どうせならばバターやジャムをいっぺい塗った甘くふんわりとしたトーストを食べたい年頃でもありました。するとそんな私の顔を見てか、当時一緒に暮らしていた祖母から言われました。「御門徒さんから頂戴したお米を仏様にお供えして、今度はお下がりとして仏様からまた頂戴している。いただきますものばかりで何とも嬉しいことじゃないか」と。この言葉には御門徒方に支えられている嬉しさと畏れ多くも仏様のお下がりを受けている忝さがあつたように思えます。

このようなことをトロントの御門徒さんと話したときある質問をされました。その質問というのは、「お仏壇にお供えするのは白米じゃなくてシリアルでも良いのか？」というものでした。予想だにしていなかった質問であつたため言葉に詰まってしまい「なぜですか？」と逆に質問をしました。するとその方は、「うちは朝食に白米ではなくシリアルを食べているから」との返答がありました。とても素直な質問と返答です。というのも、ここトロントでは毎朝白米を食べているご家庭は少ないでしょうし、炊飯器を持っていない御門徒さんもいらっしゃるでしょう。そのような人たちに「仏様へお供えするのは白米でなければなりません！」とは強く言いたくないものです。

しかし、私はその御門徒さんの返答に少しばかりの違和感を覚えずにはいられません。なぜなら彼のシリアルをお供えしたい理由は、「自分が毎朝シリアルを食べるから」でした。つまりは「そのついでに仏様へお供えする」といった言い回しだったからです。これでは順序が違ってくると思います。

第一に自分のことを考えて二の次に仏様のことを考えるようでは、それはもはやお供えとは言えません。確かに日本の主食は白米です。そして日本では昔から仏様には白米をお供えしてきました。しかし、日本人が昔から白米を習慣的に食べていたかという決して

そうではありません。昔の庶民にとつて白米は高価なものであり、簡単に手が出せるものではありませんでした。そのため自分達は粟や麦を食べていたのです。それでも仏様にはどうか白米を召し上がっていただきたいという想いからお仏飯をお供えしてきたのです。

つまり、そこに「私たちの朝食のついでに仏様にも何かをおそなえする」といった考えは毛頭なく、いまもそれは変わりません。お供え物には「第一に仏様、私は二の次もしくは三の次」という心持が大切だと私は思います。

先週、日本の友人と話す機会があり、たまたまこの「おそなえ」についての話しが出ました。その友人はご門徒さん宅へお月参りに行くとき各ご家庭で白米のお供えものを目にするようです。しかしあるご家庭だけは白米の隣にスプーンの添えられたプリンを毎月お供えしていたそうです。少し気になった彼は、お寺にある過去帳を拝見しました。するとその月参りの日は、亡くなった5歳の男の子の命日だと分かりました。

お母さんは、その命日になると息子の大好きだったプリンをお仏壇にお供

えていたのです。我が子を失っていくら月日が経てど親にとつて我が子はいつまでも愛しいかけがえのない存在で変わらないのだと彼は強く感じたそうです。

我が子を仏縁として阿弥陀如来に出遇わせてもらい、毎月の命日法要では仏様へお仏飯を、息子へ大好きだったプリンをお供えする。そのようなお母さんの姿を見た彼自身も、何とも有り難いご縁に出会わせていただいたと自然とその手が合わさっていたそうです。

私もこのお供えものとは決して白米のみに限定しなければならぬとは思いません。しかし、仏様を二の次ましてや「ついでに」といった考えでお供えをするのではなく、敬意と感謝の気持ちからお供えできればと思います。 合掌

トロント仏教会

駐在僧侶
大内祐真



カカナダ教団婦人会

ワークショップのお知らせ

この度、トロント仏教会に駐在している大内先生が、浄土真宗本願寺派における勤式（荘厳、読経、儀礼作法など）を3回にわたってレクチャーします。

第一回…合掌と焼香

私たち仏教徒は仏前にたいして掌を合わせる作法（合掌）を当たり前のように行っています。しかし、その合掌とは本来どのような意味合いをもつのか？そして浄土真宗本願寺派における正しい合掌の仕方とはなにか？当たり前のように行っていた作法であるため無意識だった方も多くいらっしやるのではないのでしょうか。また法要時に行われるお焼香にも浄土真宗本願寺派が定めた作法があります。第一回目ではそれらの解説加えた「作法」のワークショップを行います。

第二回…お仏壇とお供えもの

最近ではここカナダでも新たに仏壇を安置される方が増えています。しかし、安置しても仏壇荘嚴の正しいやり方が分からない人も多いようです。また、お供え物に対しての質問も多く寄せられます。そのため第二回では、お仏壇における荘嚴のやり方とその荘嚴のもつ意味、そしてお供えものの説明を加えてワークショップを行います。

第三回…読経と偈頌

仏事儀礼において欠かしてはならないのが、經典を読むこと（読経）や偈文を読むこと（偈頌）です。浄土真宗本願寺派でも法要時には、浄土三部経と多くの偈文を読みます。そしてそれらには博士という音階があり、それぞれの経や偈文がなんとも味わい深い儀礼空間を作り出します。第三回目は、実際にお経や偈文を称えながらワークショップを行います。

※第一回は、2月28日の午後7時からZoom配信にて予定しております。ご参加を希望される方は、

Darlene Rieger [darlene.rieger28@gmail.com]

までお問合せ下さい。